

# バカげた コロナ対策が、 子どもたちの 成長にダメージ。

国立成育医療研究センターの  
データが示す、  
偽善的な感染対策の  
深刻な副作用

失敗に終わった公衆衛生。  
客観的データで思考をアップデートせよ。

# 理不尽な奪取

大人都合のルールで失われた  
貴重な時間と成長

☆ 同世代との  
コミュニケーション  
(社会性の構築機会)

♡ 学校行事  
(協調性や達成感を  
得る経験)

☆ 日常的な運動や  
屋外活動  
(心身の健全な発達)



# 自殺企図2.3倍

- 2019年比（2024年 外来初診患者数）
- 新規入院患者数：約2.1倍
- 女性の外来患者：2.5倍の異常増加
- 一部病院の病床稼働率：130%超（目的な治辨者を数）  
（早期介入の機会喪失）

社会的な同調圧力が、  
希死念慮を抱く子どもたちを急増させた。



# 神経性やせ症 1.5倍

高止まりする深刻なメンタル危機 (203人→297人)

- 男性患者の割合が急増：8.9% → 16.1%
- 男性患者数はコロナ前の約2.7倍

ジェンダーを問わず、大人たちの見栄を守るための異常なプレッシャーが子どもを破壊した。

# 科学的根拠なきルールの連鎖

大人都合の同調圧力（黙食・常時マスク）

コミュニケーション阻害（表情を読み取る機会の剥奪）

深刻な孤立感と  
社会的スキルの発達阻害

感染防止効果は限定的。ただの「無惨なルール」。



# 学力が1年分低下

コロナが奪った「子ども時代」の実態

- 言葉が育たない環境の長期化
- 学力・言語発達への深刻なダメージ

感染防止という大義名分で、子どもたちの未来という「資産」がドブに捨てられた茶番劇。



# 異常な 過剰反応



	コロナ対策	過去のインフル対応
学校	長期の全国一斉休校	局所的対応(学級閉鎖)
食事	徹底した「黙食」	通常通りの対面食事
行事	全面的な中止	延期や規模縮小の柔軟対応

低リスクの子どもにも大人と同等の制限を強いたダブルスタンダード。



# メディアの過剰演出

なぜ無意味なルールが強制され続けたのか？

- 批判を恐れた大人の「同調圧力」
- アクセス稼ぎと承認欲求のための「無責任な煽り」
- 秒で問題ないと証明される「無意味なやり取り」

感情的なノイズに従うことは、  
自身の有限なエネルギーを搾取されること。

# 客観的データで 未来を守れ

- 感情的な扇動・ノイズを完全に排除する
- 与えられた情報を疑い、自らの頭で論理的に考える
- 「成育医療研究センター」の冷酷な現実データを直視する

他人の顔色をうかがうのをやめ、  
論理武装で子どもたちを  
次なる搾取から守り抜け。